

実行委員長挨拶

宇都宮共和大学特任教授 古池弘隆

「全国路面電車サミット 2024 宇都宮」にようこそ。1993 年に札幌市で始まった全国路面電車サミットも回を重ねること 16 回となりますが、今回初めて宇都宮で開催されることになりました。奇しくも 1993 年は宇都宮で新交通システムの検討が始まった年で、30 年後の昨年 8 月 26 日にわが国では初の全線新設の LRT、ライトラインを開業することができました。ちょうど半年が経過しましたが、利用者数は予測を上回って開業 4 か月の時点で 155 万人を超え、日本中の注目を集めています。



世界で増加の一途をたどっている LRT 都市とは対照的に日本ではモータリゼーションの進展による路面電車の衰退が続いてきました。マイカーの普及率がトップクラスの北関東の中心地栃木県宇都宮市は、一人当たりの年間ガソリン消費量が日本一の自動車依存都市となっています。その結果、住宅や商業施設の郊外へのスプロール化と中心市街地の空洞化が加速してきました。また人口減少・高齢化、バス交通の衰退など地方都市共通の課題を抱えています。

これらの都市と交通の課題を解決する手段として宇都宮では市の第 5 次総合計画でネットワーク型コンパクトシティ（NCC）の考え方を提唱し、LRT を基幹とした総合的な交通システムを検討してきました。

宇都宮での LRT の導入を巡っては賛否の議論が政治問題化し、市長選や知事選の争点になってきました。2004 年 11 月には LRT を推進しようとする市民団体「雷都レールとちぎ」が発足し、翌 2005 年 6 月には第 1 回「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 宇都宮」を開催しました。2014 年には第 7 回の全国大会を再度宇都宮で開催しました。今回のサミットは雷都レールとちぎにとりましては第 3 回目の全国大会になります。

今回のサミットのテーマは「ライトラインから都市交通改革を全国へ」となっています。宇都宮で始まった LRT の 30 年におよぶ経験とその成果を日本全国に広めていくという大きな目的をこの大会を通じて皆様と共有できれば幸いです。